

第2学年 国語科学習指導案

指導者 熊本市立出水中学校 城音寺 明生

I 題材名 「対話劇を体験しよう」(三省堂2年)

II 題材について

1 題材観

日本語を話す時に、親しい仲間内のおしゃべりはできるが、初めて会う人やよく知らない人との話は難しいと感じる場合が多い。また、仲間同士でもある物事について意見交換を行うとなるとなかなか話が進まないことも多い。筆者は、「対話」を「知らない人との間の情報交換や価値観の摺り合わせ」と定義している。この「対話」が自由にできないと、相手の思いを誤解したり、自分の言いたいことが伝わらずストレスの原因となったりすることもある。逆に、「対話」ができると、自分の言いたいことを理解してもらったり相手の話から新しい発見ができ、人は大いに喜びを感じることができ。相手と自分との人間関係を形成する上で「対話」の果たす役割は大きい。

「対話」ができるためには、相手との持ちたい関係や自分の伝えたい思いは何かという目的意識をもって、相手の言葉から立場や性格、心理などを情報として読み取り、互いを結びつける話題、言葉遣いを選択し、言葉を発信しなければならない。現代社会に生きる者として多種多様な交流を経験する生徒にとって、「対話」の学習を経験することは将来にわたり大きな意義がある。

本題材において、生徒は、「対話」を劇という形をもって体験する。「対話劇」を通して、相手の思いを理解しようと努めたり、自分の思いをわかってもらおうと努力したりすることにより、豊かな人間関係づくりのための言語技能が習得され、自分たちの日常の話し言葉を振り返ることができると考えられる。

2 系統観

学 年	1 年		2 年		3年
題 材	討論ゲームをし よう	スピーチで振り 返ろう	ポスターセッシ ョンをしよう	対話劇を体験し よう	パネルディスカッ ションをしよう
関連する言語技能					
適切な話題を決める		○	○	◎	○
話の構成や展開をとらえる	○	○	◎	○	◎
的確な言葉の選択や適切な言葉遣いをする			○	◎	○

3 生徒の実態

男子19名、女子21名、計40名の学級である。

独話が好き(38%)に対し、対話が好きは(75%)である。

独話が苦手な原因は、「話し方が下手で自信がない」であり、その中で「何について話せばよいかわからない」と「話題が決まってもどう話せばよいかわからない」と言う生徒が25%いる。対話が苦手という主な原因は、「相手を納得させるような自信がない」である。

一学期に学習したポスターセッションにおいて、生徒は「質問を考えることや効果的な応答の難しさ」を感じている。特に、「相手の意図を理解した上での自分の考えをまとめ伝えるための言葉の選択や言葉づかい」について課題を持っていた。

4 研究の視点にそった授業の工夫

(1) 視点①『「話そう・聞こう」という意欲を起こす自己課題の持たせ方を工夫する』について
会話から対話に入る場面を設定し、「どんな関係を持ち、どんな話を伝え合いたいか」という目的意識を日常の体験を参考にして考えさせ、対話劇に対する意欲を喚起し、対話劇の話題づくりの手だてとしたい。

(2) 視点②「的確に話したり聞いたりする力を身につけ生かす場を工夫する」について

言語技能の習得として、台本や対話劇の練り直しの場面を設定したい。その際、相手や目的意識、話題づくりや話の構成展開、言葉選択や言葉づかいという観点を明確にもたせ、モデルの班の対話劇を見させ、自分たちの班の練り直しに活用させたい。

(3) 視点③「身についた話す聞く力を実感できる評価を工夫する」について

自身の課題が明確にわかり、言語技能の習得が実感できるように、台本と評価シートを用いた。それをもとに、自己評価や相互評価を行い、日常の自分の話し言葉の中によりよい対話につながる言葉遣いがあることに気づかせる場面をつくりたい。

Ⅲ 学習指導の目標

- ・広い範囲から話題を求め、話したり聞いたりして、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたりすること。(A-ア)
- ・話の内容や意図に応じた適切な語句の選択、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して、話したり聞き取ったりすること。(A-ウ)
- ・相手の立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めること。(A-エ)

○対話劇を体験し、相手や目的、場による話し言葉の違いに気づかせ、自身の日常の言葉遣いを振り返らせる。

Ⅳ 指導と評価の計画（7時間取り扱い）

次	時	学習活動	評価規準	評価方法
1	1	・会話と対話の違いを意識し、班で教科書の台本を読み合う。	<関心・意欲・態度> 1 協力して話し合い、目的をもって台本づくりや台本の練り直しをしている。 2 よりよい対話劇になるように積極的にアイデアを出す等工夫をしている。	観察記録 (台本)
2	1	・相手や目的、場にあふさわしい対話劇の台本をつくる。		
3	2	★教科書「対話を考える」を読み、対話についての認識を深め、対話劇の台本を完成させ、練習をする。 (適切な話題、話の構成や展開、的確な言葉の選択や適切な言葉遣い)		
4	1 本時	★一つの班の対話劇を見て、意見を交流し、台本の練り直しと対話劇の練習をする。 (適切な話題、話の構成や展開、的確な言葉の選択や適切な言葉遣い)	<話すこと・聞くこと> 1 相手や目的、場に応じた話題や話の構成、言葉遣いを工夫している。 2 自身の話し言葉を振り返り、よりよい話し言葉について考えられる。 <言語事項> 1 相手や目的、場にあふさわしい言葉の選択や言葉遣いをしている。	自己評価 (台本) (評価シート) 相互評価 (評価シート)
5	1	☆対話劇を発表しあい、よりよい人間関係をつくるための対話について意見を交流する。		
6	1	☆前時の対話劇のビデオを視聴し、自身の日常の話し言葉と照らし合わせて、自身の対話力について考える。		

Ⅴ 本時の目標

1 目標

○話題や言葉づかいの点から相手や目的、場に応じた対話劇をつくる。

2 評価

評価項目	具体的な評価規準	つまづきへの手だて
関心・意欲・態度	・対話の目的を意識して話している。 ・台本の練り直しと練習に積極的に取り組んでいる。	・台本で、相手との人間関係がよくなっている言葉を見せ、対話の効果を知らせる。
話すこと 聞くこと	・話題と話の構成、展開をとらえて話を進めている。 ・相手、目的、場に応じた言葉遣いをしている。	・場面が変化しているところを台本で確認させる。 ・対話の相手との共通の話題について自分の思いを出させる。 ・せりふの言葉をもとに相手の立場や相手の気持ちを考えさせる。 ・語尾や敬語に着目させる。

3 展開

★は言語技能を習得する場面

☆は言語技能を応用する場面

過程	学 習 活 動	時間	基 本 発 問 ・ 指 示
導 入	1 対話劇の目標を確認する。	5	<p>○対話は知らない人との考えの交流です。今日は転入生との出会いの場面对話劇で演じることとなります。</p> <p>○この対話劇のポイントを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入生に対してどのような思いや目的で対話をするか。 ・転入生との出会いをどんな話題や話の展開、言葉づかいで行うか。
<p>よりよい人間関係が築ける対話を目指して対話劇を工夫しよう</p>			
展 開	<p>2 一つの班の対話劇を見て、感想や意見を交流し合う。</p> <p>3 2で演じた班のビデオを見て気づいたことや感想を述べ合う。</p> <p>★ 4 台本の見直しをして練習をする。</p> <p>★ 5 二つのグループ同士で対話劇を見せ合い、感想や意見を交流し合う。</p>	<p>40 (20)</p> <p>(20)</p>	<p>○対話劇を見てもらいます。</p> <p>○次の四つの観点をもって対話劇を見ましょう。</p> <p>○ビデオを見て、もう一度対話について考えてみましょう。</p> <p>○自分たちの班に取り入れたい言葉や話し方がありましたか。</p> <p>○よりよい対話劇になるように班で話し合い、台本に赤ペンで書き入れましょう。</p> <p>○学習したことを意識して、二班で対話劇を見せ合い、感想や意見を交流しましょう。</p>
ま と め	6 本時の学習を振り返り、感想をもつ。	5	○評価シートを整理しましょう。

